兵庫県透析医会のパソコン通信ネットワーク

申　曽洙　永井博之　内藤秀宗　関田憲一　宮本　孝　沢田勝寛
江尻一成　中西　健　松尾武文　岩崎　徹　井上聖士　高瀬重暉
森本義康　小原一朗　大前博志

はじめに

兵庫県下の透析医は，先の阪神大震災（兵庫県南部地震）を経験して，災害時に正確な情報の把握と伝達がいかに大切であるかを身にしみて知った．透析施設に電気も水もなく透析どころではなかったとしても，代替の緊急透析のために的確に状況を知ってそれを伝えなければならなかったのである．災害時の情報伝達方法として，まず第一には電話であり，停電対応，緊急用優先回線，携帯など各種の電話とFAXが重要であるが，それとともに確保したい通信手段の1つに，パソコンを用いた通信ネットワークがある．

先の震災時にも情報伝達の新しい手段として，パソコン通信が有効であったと伝えられた．パソコンを電話線に繋いで通信すれば，県下の会員と透析施設相互の効果的な情報伝達が可能になるのではないか，パソコンを通じて情報を集約できれば，パソコンさえあればそこが情報センターになれるのではないか，大震災を体験したものとして兵庫県透析医会が透析医療機関の災害対策のモデルとなるような通信ネットワークを構築できないかと考え，幹事会と庶務委員会で幾度も議論し，災害対策委員会を組織して，われわれの経験を未来に，また全国の透析施設の災害対策に有効に生かしていくためにできることの一つとして，兵庫県透析医会がパソコン通信ネットワークをスタートさせた．

1　ニフティーサーブのホームパーティーからパティオへ

まず1996年1月にパソコン通信ネットワーク構築についてのアンケートで協力施設を募ったところ，県下の29施設から協力の申し出を得，1996年6月14日に兵庫県透析医会事務局がニフティーサーブにホームパーティを設定して，有志参加のスタイルで兵庫県透析医会のパソコン通信ネットワークが出発した．ホームパーティーには翌年パティオに昇格して閉鎖されるまでに，46のIDの参加と241発言があった．

現在は，このホームパーティーを引き継いでちょうど1年後の1997年6月14日に開設したニフティーサーブのパティオを，兵庫県透析医会パソコン通信ネットワークの主なボード（コンピュータ上の共通の広場，中庭）として利用しており，1999年2月12日現在，このパティオへのアクセスIDは67，参加施設機関数は51で，ちょうど501発言という運用状況である（図1）．

これらのボードには兵庫県透析医会の総会，幹事会，委員会などの会務だけでなく，兵庫県下の透析関係のいろいろな行事の案内や報告なども掲載され，災害時だけでなく平時から兵庫県下の透析医と透析施設関係者のためのよい情報源，また相互のよい情報交換の場として運営されている．

2　情報伝達訓練

1998年には4月と10月に，事務局から同報

兵庫県透析医会災害対策パソコン通信委員会

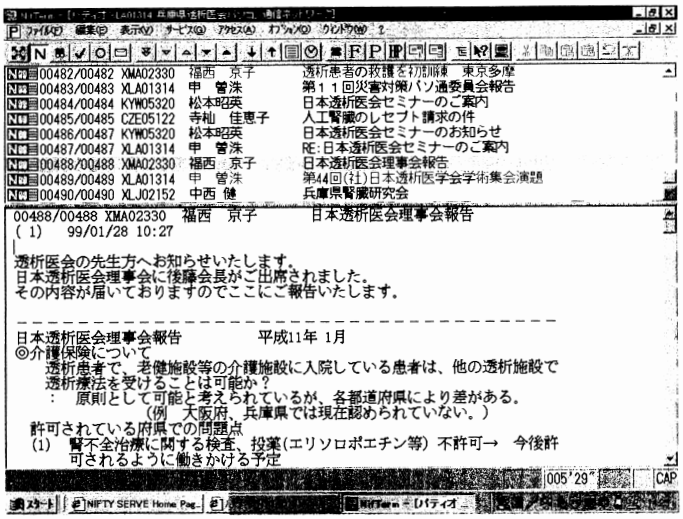

図１　兵庫県透析医会のパティオ
（ニフティーサーブ，ブラウザーはニフタ－ム）

メールを使って電子メールの到着を確認する形で，2回の情報伝達訓練を実施した．

第1回目の情報伝達訓練は，1998年4月8日に42透析施設機関の代表IDと，関連の18のID，合計60のIDに事前に予告して同報し，返信のないところには催促の連絡もした結果，当日から3日目までに19のIDからの，14日目までには39施設機関の44のIDからの返信メールを確認した．

第2回目の情報伝達訓練は，1998年10月1日に50透析施設機関の代表IDと関連の17のID，合計67のIDに抜き打ちの同報メールを発送し，催促も一切なしに返信メールを待った結果，3日目までに16施設の21のIDから，14日目までに30施設の36のIDから，21日目までには37施設の43のIDから返信メールが到着した．

以上の結果から，兵庫県透析医会のパソコン通信ネットワークは，かなり日常的に利用され，災害時にもある程度機能できることが確かめられたが，一方では，まだまだパソコン通信とインターネットの設備設定はしていても，日常的には利用していない施設も多く残る実態が分かり，さらに有効に機能させていくことが課題となっている．

3　兵庫県透析医会パソコン通信ネットワークの今後について

現在，兵庫県透析医会パソコン通信ネットワークは，毎日10数名の方がパティオを覗き，兵庫県透析医会の日常的な連絡にも電子メールがかなり使われるところにまで来たが，これからの課題がまだまだ多く残っている．

現在はニフティーサーブのパティオを主に運営しているが，このパティオをさらに活性化していくこととともに，ホームページの公開やメーリングリストの利用というようなことも視野に入れている．ホームページは会員用のものとしてはすでにスタートしているが，一般に公開するにはどういう体制でどこまで公開するのかなどの議論が残って公開が遅れている状態である．しかし近く公開できる見通しとなっている．

コンピュータと電話がせっかく繋がっているのに実際にはあまり利用できていない施設もまだ多い実状があるが，日本透析医学会や日本腎臓学会の演題がホームページ上で応募できるなどインターネットの普及がよい追い風となっており，兵庫県透析医会のパソコン通信ネットワークが今後さらに充実した

ものとなって，災害時などにも的確な情報の把握と伝達に大きな威力を発揮できるものになることを期待している．

4　基幹４施設を中心とした電話 FAX 連絡網

兵庫県透析医会災害対策パソコン通信委員会では，

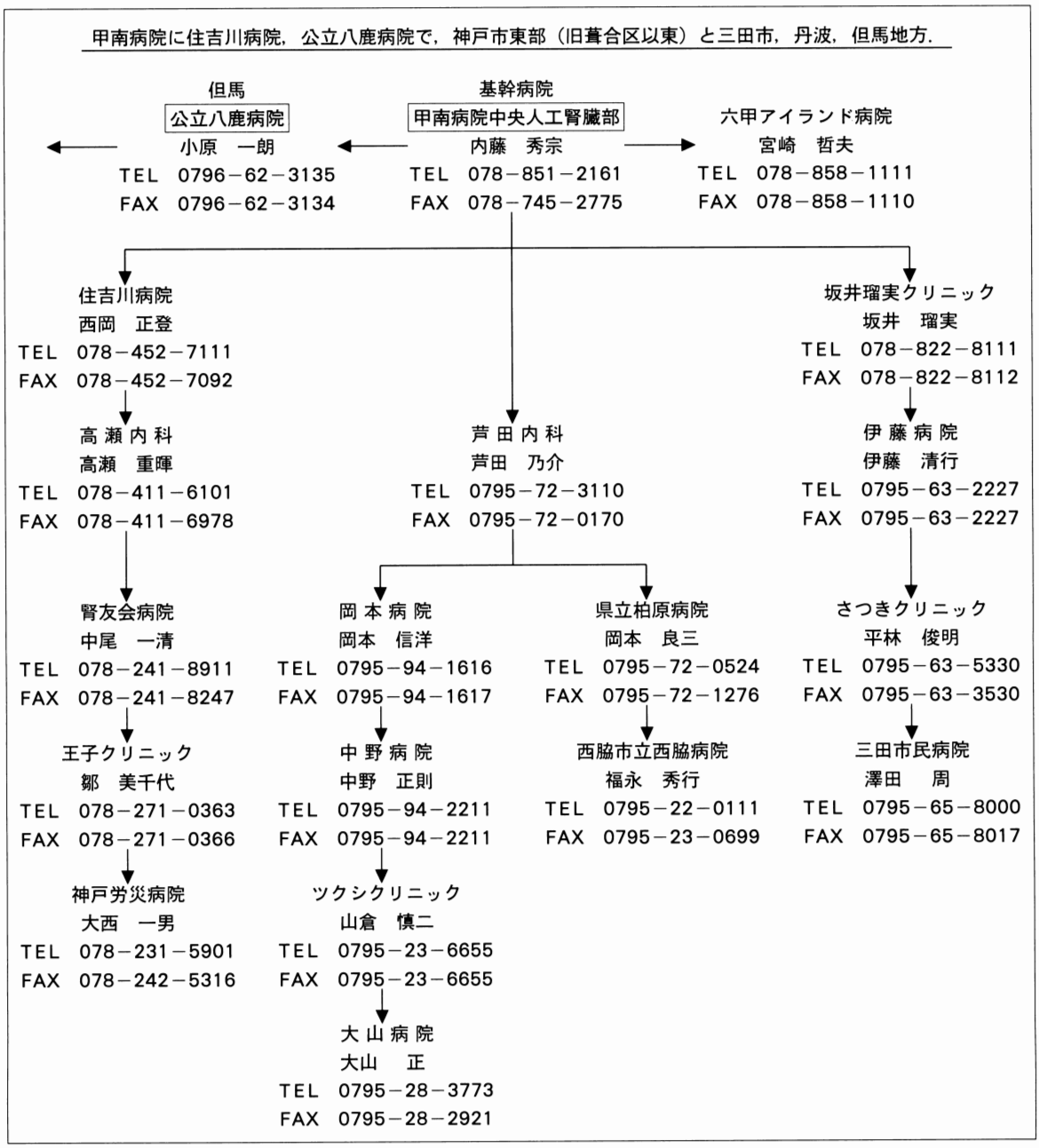

図２　神戸市東部・三田・丹波・但馬地方連絡網（1999.2.19）

このパソコン通信ネットワークとは別個に，基幹4施設を中心とした電話FAX連絡網を構築している．

実際の災害時には個別的な対応が優先され，個々の透析施設自身が主体となって緊急透析の手配などが行われるものと想定しているが，兵庫県透析医会はこれを情報面でバックアップするために，一つにはパソコン通信ネットワークを構築してパソコンさえあれば会員がいつでもどこでもリアルタイムの情報を利用できる体制を作るとともに，兵庫県透析医会としての地域別の電話FAX連絡網も併せて構築した．

兵庫県透析医会では先に，日本透析医会からの「地域での災害対策策定の要請」の中で述べられた災害対策の核となる施設として4つの基幹病院を決めており，この4系統からの電話FAX連絡網を以下のように構築した．

1) 兵庫医大に県立尼崎病院，尼崎永仁会病院で，阪神（西宮，尼崎，伊丹，宝塚）．
2) 甲南病院に住吉川病院，公立八鹿病院で，神戸市東部（旧葺合区以東）と三田市，丹波，但馬地方（**図2**）．
3) 神戸大学に原病院，県立淡路病院で，神戸市西部（旧生田区以西）と北区および淡路．
4) 高砂市民病院に城陽江尻病院，森本クリニックで，県西部方面（西播，東播，明石）．

5 神戸市の神戸市医療情報防災無線ネットワークとの接続

これもパソコン通信ネットワークとは全く別個に，神戸市がデジタルMCA無線による神戸市医療情報ネットワークを構築した．兵庫県病院協会神戸支部の84施設中69施設がこれに参加し，この69施設には13の透析病院（甲南，住吉川，六甲アイランド，原泌尿器科，川崎，末光，春日，真星，神戸朝日，神戸協同，新須磨，佐野，佐野伊川谷）が含まれているため，兵庫県透析医会事務局のある元町HDクリニックがこれに参加して，神戸市内に防災無線の情報ネットワークが形成された．

6 参加協力金など

兵庫県透析医会パソコン通信ネットワークへの参加施設には，基幹病院には各20万円（×4），それ以外の施設には1施設10万円（×45），合計49施設に対して総額530万円の参加協力金が震災時に全国から寄せていただいた義援金の中から支出された．またパソコン通信ネットワークを管理するために，事務局にパソコンや周辺機器を購入するなど，震災時に寄せられた義援金なしに兵庫県透析医会パソコン通信ネットワークの発足と発展は考えられないものであり，ここに当時兵庫県透析医会と兵庫県の透析医療機関に多額の義援金を寄せていただいた全国の透析施設と関係者のみなさまに，心よりお礼を申し上げたいと思う．

おわりに

今後とも兵庫県透析医会と災害対策パソコン通信委員会は兵庫県透析医会パソコン通信ネットワークをさらに発展させ，兵庫県透析医会としての災害対策マニュアルも作り，会誌やホームページなどでも有益な情報を提供していくなど，全国の透析医療機関の災害対策に役立つような活動を続けていきたいと思っている．

兵庫県透析医会では災害対策パソコン通信委員会が2カ月に1回，幹事会が2カ月に1回，庶務委員会は毎月，総会は年2回というように，定期的に集まって活動しており，こうしたわれわれの活発な活動が全国の透析医療機関の災害対策に実際に役立つものに実っていくことを願って，この稿を終わりたい．